



大本山總持寺 太祖堂で總持寺参拝記念撮影 (10/1)

大本山總持寺に揃って参拝 日帰りバス研修視察に70名参加

萬福寺護持会では10月1日(月)大本山
總持寺参拝日帰りバス研修視察を



大本山總持寺の三松閣大広間

檀信徒様のご支援に感謝

これまで副住職をお務めさせていただきましたが、年齢とともに体調不良を伴い辞任することになりました。今まで檀信徒の皆様には一方ならぬご支

援を賜りましたこと、深く感謝し厚く御礼申し上げます。

また護持会役員の皆様にはご鄭重なるご配慮を戴き、各普請住職の役を務めさせていただくことになりました。体調は万全ではありませんが、ご法事は今までのごとくお務めさせていただくこととなりますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

行い、曹洞宗の二大本山(永平寺と總持寺)の1つである大本山總持寺に参拝し、幾多の伽藍を拝観しました。参加者は70名。

總持寺は瑩山禪師(永平寺を開いた道元禪師から4代目)によって開創、全国に広め曹洞宗の礎を築き、能登で570年余栄えておりましたが、明治31年(一八九八年)大火災に遭い焼失、ほぼ10年後に現在の横浜市鶴見に移転、国際的な禪の根本道場として偉容を誇っています。昨年、「移転100年記念」を迎えました。

本欄では三松閣での總持寺布教師による法話の中の「3つの心」を抜粋して紹介します。

幸せなる道、苦しみを乗り越えるにはどうしたらいいか、次の3つの心を持っていたきたい。そうすれば幸せになれるし、周りも幸せにできます。

一、報恩の心―受けた恩に報いること、恩を忘れてはいけません。

二、慈悲の心―仏教の精神である慈し

**法灯を守り
益々精進を**

萬福寺副住職 安本由道

18歳にて上京し駒沢大学へ進学、そして永平寺修行後、引き続き当山に務め27年余りが経ちました。山内では護持会役員檀信徒の皆様、これまでに関わるすべての皆様方に生かされ、多大なるご指導ご支援を賜りまして一言御礼ご挨拶を申し上げます。

これから出発点です。檀信徒の皆様と共に歩み、力の及ぶ限りそれ以上の努



大本山總持寺 接見の間 (上段の間)

みの心を持ち、誰に対しても等しく与えられるような生き方をしなければなりません。

三、寛容の心―仏様のような心をもって、人様の過ちを許してあげましょう。更に、笑顔を加えるともっと良いと思います。

※この後、横浜中華街へ向かい、おいしいお料理をいただきながら楽しい歓談となりました。



大本山總持寺 大黒様



横浜中華街・葉香で



波田野鈴雄顧問



波田野章雄修養委員長



小林榮子会長

力を自分自身なりに務めさせていただく所存です。さらに萬福寺に関わる皆様方の声の一つ一つに耳を傾け大切に取組んで、住職の教えの中、先住大準大和尚からの法灯を守り、今までの経験を生かしながら誠心誠意をもって益々精進をしていかなければなりません。

また皆様におかれまして、今までも変わらぬお付き合いと気軽にお茶を飲みながらのお話し合いにご来山いただき、お互い感応できれば幸いです。その際にもご指導ご鞭撻ご法愛を賜りたくお願い申し上げます。

合掌

新盆と盂蘭盆会法要

平成24年7月13日(金)

12時(正午)から新盆法要、など
渡邊老師による法話



安本利正ご住職様

新 盆法要の後、東龍寺(新潟県南蒲原郡田上町)のご住職の渡邊宜昭老師による法話「向き合う 伝える 支えあう」があり、14時から盂蘭盆会法要が行われました。

行事の間に、今年行われた萬福寺護持会の役員改選に伴い新役員の方々を紹介されました。

まず、平成19年から萬福寺護持会会長を務められた波田野鈴雄氏、新会長の小林榮子氏がそれぞれ挨拶され、続いて安本ご住職様のご挨拶、近況報告、そして副会長の波田野章氏、副住職の安本由道氏から大本山總持寺参拝など、今後の行事について説明がありました。

渡邊老師による法話は、「お釈迦様の4つの教え(四摂法)である「布施」(恵みを与え続ける)、「愛語」(慈しみの心で語り合う)、「利行」(幸せを願い行動する)、「同事」(苦しみや喜びを思いやる人となる)」についてお話されました。

大施餓鬼会法要

平成24年7月23日(月)

午後1時から法話、2時から法要
田上老師 法話「なぜ「南無阿彌陀仏」と称えるのでしょうか？」



もは2階で厳経を終えるとトイレに行き、食堂に行く習わしだが、その日はすぐ2階へ。それを見たお嫁さんが「おじいちゃん、早く食べんと味噌汁が冷えるわ」と声をかけると、「俺は死ななきやならんから朝飯を食って暇はない」と返事があった。夕方学校から帰ると、仏様の前で法をして北枕で亡くなった」という有名な話です。

人生にはこうした最後の幕引きがあるんだなあ、今でも私はこの話が頭から離れません。「南無阿彌陀仏」のたつた

法 話では宮城県照源寺三宅大哲師、新潟県吉蔵寺大澤香有師、北海道天瑞寺日比博英師による梅花流詠讃歌「三宝御和讃」のお唱えが行われました。お釈迦様・両祖様を讃え、「先祖様を敬う心を唱える歌のメロディーはどこか懐かし、心に響きます。歌の上手下手ではなくそこに道心があることが大切で、心を込めてお唱えしなす、との説明があり、参拝者全員でお唱えする声が境内に心地よく響きわたりました。

また「人生は一度しかないといいますが、本当に昨日は返ってこない、常に移り変わっていく社会の中で私達は生きています。一度しかない人生をどう生きるか、お釈迦様の4つの教え(四摂法)を胸にとどめて生活していただけたら、自分だけでなく他人との幸福な時間が共有できる」というお言葉がありました。

2時からは秋彼岸法要が執り行われました。



(左から) 日比博英師、三宅大哲師、大澤香有師